プロバスケ
B３開幕

ビートレインズ　再建の始まり

八王子唯一のプロチーム、バスケ「東京八王子ビートレインズ」（B3）の2021―22シーズンがいよいよ10月2日㈯に開幕する。今季B3リーグは15チームで優勝を争う。ビートレインズは2012年に創設し15年からリーグに参入、前期は11チーム中7位の成績。3年後のB2昇格をめざしている。今季6年ぶりに早水将希氏（37）がヘッドコーチに就任。選手とフロントが「一枚岩」で上位を狙う。

東京八王子ビートレインズの選手、フロント一同。青のスーツが早水HC。その左隣りが室舘社長

早水HCに聞く

ノートパソコンを手放さず、オフの日は1日中、画面に向かうことも。前回の試合、次回の相手の試合、その相手の別の試合など合計数時間の動画を見て分析、5分程度の内容に「編集」する。「選手がみたくなるように。テロップも付けます」

早水氏は大きな期待を背負い、2度目の指揮をとる。フロントはこれまでの課題を「解決してくれる人物」と早水氏を選択した。

早水氏は大阪府の出身。日本体育大学でバスケ部に所属するも当時の部員は120人。なかなか活躍の場はなかった。卒業後、幼稚園で運動を指導した。小学生の頃から続けてきたバスケを初めて離れると、逆に「選手への思い」が増していた。「もう一度チャレンジしたい」。茨城県のプロチームに頼み込んだ。練習生として1年間プレー。最終的に正式な選手契約には至らなかったがその後、マネージャーとなり14年にはアシスタントコーチに就任した。

これまでの5年間、B3東京エクセレンス（現横浜エクセレンス）のアシスタントコーチとして「優勝」「B2昇格」に貢献した。「スター選手と言われる選手はいなかった。ただ、ヘッドコーチがやろうとするバスケを遂行できる選手がいた」とチームの成功を回想する。またその間、選手の入れ替わりも少なくチームとして土台が作れていたことも勝因の一つと考える。自身はヘッドコーチと選手との架け橋になるよう、コミュニケーションを重視し食事や車に同乗する機会で「密」に話をした。

「チームがチグハグしている時は何かが引っかかっている。お互い敵じゃないんだから、自分が間に入って解決を考えました」

復帰の理由

この秋、6年ぶりに八王子へ帰ってきた。エクセレンス時代、古巣はずっと気になる存在だった。復帰を申し出た理由については「1年目にできなかったカルチャーづくりをしたい」という。

ビートレインズは18年、一度B2へ昇格した。「勝つための努力はものすごくされたと思う。ただ、それが大きすぎたのでは」。翌年はB3に降格。その後、運営会社の経営が問題になり20年には オーナーが交代。前期も下位だった。

パソコンに向かう早水HC

もちろん「強さ」はチームの大きな魅力であるが、魅力はそれだけではない。チームの雰囲気も「地域に愛されるため」に必要ではないかと考える。そう思うのはエクセレンスでの経験が大きい。「それほど裕福なチームではなかったですがファミリーのようだった。勝つことは目的のひとつだったが、勝つことだけが目的ではなかった」。例えば試合で倒れた選手を助ける、整列の際にきちんとした態度をとる。ファンはそのような点もしっかり見ている。理想とするカルチャーやファミリー感は、そのような勝負以外の部分で醸成される。

応援に甘んじず

八王子での挑戦が再び始まる。「勝っても負けても応援されるチームも良いかもしれませんが、我々はそこに甘んじてはいけない」。パソコンに向い動画で試合を分析し選手と共有するようになったのは、前チーム2年目の時。そこからチームは優勝、昇格の道を歩んだ。「チームを根本から変えていきたい」。前チームで達成した土台づくり、チームバスケの遂行など成功体験を「八王子でも」と考えている。

諦めない姿見せる

今季キャプテンを務めるのは上田雅也選手＝写真。移籍2年目だが、これまでの実績を生かした「まとめ役」に期待がかかる。

高校、大学時代もキャプテン経験はある。「ヘッドコーチの求めていることを実行し、選手間ではしっかりコミュニケーションをとっていきたい」と意気込みを語る。一方、「キャプテンの役割を意識し過ぎると、自分のプレーを忘れがちになる」と、メンタル面でのバランスを心掛けるという。

チームの強みは「得点力。全員が点を取れる」とみる。その反面、「もちろんそれだけでは勝てない。みんなで守る意識が大切」と勝利への道筋を考える。理想のリーダーについてはプロ野球の野村克也さん。「人間性を含め尊敬できる」

「必ず最後まで諦めない姿勢を見せていきたい」。ファンに誓った。

ビートレインズ
運営会社

「黒字化」支援者へ感謝

室舘社長に聞くオーナー初年度

「見えないこと、わからないことだらけでした」。昨年春、運営会社の経営危機問題が明るみなった地元プロバスケチーム「東京八王子ビートレインズ」。前代表の跡を引き継ぎ経営再建に取り組んだ室舘勲氏に、初めてのオーナーとして1年間を振り返ってもらった（聞き手＝八王子編集室）。

昨年4月、㈱THTマネジメントの社長に就任した室舘氏。千代田区にある人材教育会社㈱キャリアコンサルティングの社長も務める

負債2・7億引継ぎ

―13日にあった株主総会では何を話しましたか

「就任した2020年4月当時、ビートレインズを運営する株式会社THTマネジメントはおよそ2億7000万円の債務を抱えていました。1億円の赤字が2期続いていた状態で、あのままだとチームは無くなっていたと思います。そこから立て直しを図り、前期（同年7月～21年6月）は180万円の黒字にすることができました。本当に大変でした」

―1年でここまで改善されたことに驚きますが、負債額も大きかったですね

「想定より大きな金額でした。ただ、『使うべきところは使う。使わないべきところは使わない』と経営の基本に基づき、しっかり基準を作って見直すことで良い方向に導くことができました。弊社共同代表の高松と何度も話しあいました」

3点見直し

―具体的には？

「まず支出を減らそうと。主に手を付けたのは人件費、ファンクラブの運営、グッズ販売体制です。人件費は外国籍選手への割合が偏っていて、ファンクラブは会員の方の立場からしてみると嬉しい内容が多かったのですが、経営的にはプラスにならないものでした。グッズは単価を下げるためロットを多くする傾向があり結果、在庫が増え続けていました」

―会場に訪れるファンにはわからない内容ですね

「なのでオーナー交代にあたり『うまくいっていたのになぜ？』と思われた方もいらしたのではないでしょうか。実際現場は破綻寸前で、先ほどの3点についてはそれぞれ的確に改善しました。外国籍選手の人件費を減らし、会員の方には申し訳なかったですがファンクラブの特典を見直し、グッズは在庫を抱えないで済むよう少ロット、受発注形式としました。グッズについては逆に希少価値が増し、それまで以上に購入していただきました。ありがたいことです。あと、地方試合にあたり新幹線で移動していたところをバスに変更したりして経費を削減しました。選手には苦労をさせてしまったかもしれません。彼らにも大変感謝しています」

昨季、観客を入れず開催したリモートマッチの様子

―ですが、コロナ禍で試合の来場者数は減ったと思います。収益を出すのは難しかったのでは

「ファンクラブ特典のチケット割引をやめ、会員皆様には通常料金で入場いただきました。これが大きかったです。『熱心に応援しているのになぜ？』と不満だった方もいらっしゃいましたが、こちらから事情を説明すると理解をしていただきました。本当にあたたかいファンの方々に恵まれています」

人間力形成を

―緊急事態宣言中でリモートゲーム（無観客試合）もありました

「ただ、それもわずか3試合でした。他チームはもっと多いところもありました。ほとんどを有観客で開催できたのは行政（八王子市）と施設管理者（エスフォルタアリーナ八王子）の方々のおかげです。そのような多くの方々の支えがあり、ファンクラブ、グッズ、チケットにおける売上はいずれも過去最高。チケットは『有料率』においてリーグトップでした。重ねて感謝申し上げます」

―それでは今季についてです。開幕（10月2日）直前ですが今季はどのような取り組みを考えていますか

「昨年できなかったことの一つとしてスタッフ、選手らへの教育があります。リーダーシップの養成、人間力の形成で強い組織ができると考えています。あと、選手については規律を大切にしてもらいたい。昨年あった光景ですが、試合中チームメイトが倒れた場面で手を貸さない選手がいました。本場NBAでもそのような人はいません。例え相手チームでも手を差し出せる選手になってもらいたいです」

B3盛り上げる

―所属するB3リーグは長崎や千葉など注目の新規参入チームがあり盛り上がりそうです

「新規チームの思い通りにさせないよう、頑張りたいです。我々は3年後のB2昇格を目指しています」

―最後にスポンサーや市民へメッセージをお願いします

「皆様の支援がチームの存続、そして会社の黒字につながりました。本当にありがとうございます。八王子の皆様が誇りに思えるチームにします。八王子の皆様が誇りに思えるチームにします。一緒に応援しましょう。アリーナでお待ちしています」

子どもたちに夢と未来を！　バスケで八王子を盛り上げる！

プロバスケ
B3リーグ所属

東京八王子ビートレインズ

運営会社 株式会社 THT マネジメント　八王子市子安町 3-6-7 サザンエイトビル 1F ／☎042-649-4440